

平成 29 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバスなどの旅客輸送の確保並びにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関などが協議及び連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 21 年 3 月には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップなどを実施し、これからの公共交通施策の根幹ともいえるべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市民のための持続可能な公共交通体系の構築を目指し、各種事業に取り組んできた。

平成 26 年 3 月には、これまで進めてきた公共交通づくりに資する基本方針を踏襲するとともに、引き続き持続可能な公共交通体系を構築するために「第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定した。

2 平成 29 年度の事業内容

(1) 活性化協議会の開催

地域の実情に即した輸送サービスについて審議して決定するために本協議会を 3 回開催した。

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	6 月 1 日	16 人	7 人	○平成 28 年度事業経過報告・会計収支決算報告 ○平成 29 年度事業計画（案）・会計収支予算（案） ○ひまわりタクシーの事業計画の変更について ○湯舟のりあいタクシーの本格運行について ○坂上線バスの事業計画の変更について
第 2 回	11 月 21 日	12 人	1 人	○恵川橋橋りょう修繕工事に伴う玖波駅停留所について
第 3 回	12 月 18 日	15 人	3 人	○栄ぐるりんバスの廃止について ○栄ぐるりんタクシーの事業計画について ○有限会社やまとタクシーの一般乗合旅客自動車運送事業の認可申請について

【事業費（3 回分）】 報償費：155,000 円（@5,000 円×31 人） 食糧費：4,400 円

(2) 幹線交通検討分科会の開催

恵川橋橋りょう修繕工事に伴うこいこいバスの運行ルートの変更（以下「迂回路の設定」という。）、こいこいバス利用者アンケート調査（以下「アンケート調査」という。）の実施などについて協議するために本分科会を 2 回開催した。

迂回路の設定については、平成 28 年度から工事を実施することとなったため、工事期間中の平成 30 年 1 月末までは玖波駅西口に停車することとし、平成 30 年 2 月からはアンケート調査の結果を参考に玖波駅東口への運行ルートに戻すことを決定した。

なお、アンケート調査については、実施概要及び調査項目などを審議して決定し

た。

	開催日	出席者	主な協議内容
第1回	9月7日	5人	○こいこいバスの運行ルート等について ○こいこいバス利用者アンケートについて ○こいこいバス利用者への還元について
第2回	11月14日	8人	○こいこいバスの運行ルート・運行時刻等について

【事業費】 食糧費：770円

(3) こいこいバスの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

平成29年度は、利用者が順調に増加し、年間利用者数(149,519人)、月間利用者数(8月：13,615人)、1日の利用者数(3月23日(金)：617人)が過去最高を更新した。また、11月には「バスエコファミリーキャンペーン」を実施した。

迂回路の設定のため、工事期間中の平成30年1月末までは玖波駅東口の停留所を玖波駅西口に移設していたが、平成30年2月からは玖波駅東口へ停留所を戻した。

なお、安全性に問題のあった玖波駅方面の御園大橋バス停について、乗客が安全に停留所で待機できるように待機場所を設置した。

【受託者】	(有)大竹交通、(有)大竹タクシー
【運行期間】	平成29年4月1日～平成30年3月31日
【運行区間】	JR大竹駅～JR玖波駅(全長：8.0km、停留所：19か所)
【運行日数】	毎日運行(平日：247日、土日祝日：118日、計：365日)
【運行便数】	平日：34便、土日祝日：32便
【利用者数】	149,519人 ※平均値：409.6人/日、12.28人/便
【運行経費】	29,030,000円 ※2台運行
【事業収入】	30,746,013円(収支率：105.91%)
	{ 運賃収入：14,437,997円 販売収入：16,054,000円(事務局販売) 広告収入：228,096円(ベンチ) 広告収入：25,920円(車内)
【補助金額】	0円
【関連事業費】	バスエコファミリー補てん：8,900円、車内案内変更：97,200円 回数券払い戻し：400円 御園大橋バス停整備工事：393,120円(結節点整備費)

(4) 三ツ石地区乗合タクシーの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。最も利用者数が多かった平成23年度以降、利用者が減少傾向にあるものの、運行及び運営状況は他の乗合タクシーと比べて最もよい。

前年度と比べると利用者数は維持（同数）しているが、1台当たりの利用者数と収支率は微減している。

【受託者】	南大竹交通
【運行期間】	平成29年4月3日～平成30年3月30日
【運行区間】	三ツ石地区～ゆめタウン大竹または市役所
【運行日数】	154日（毎週月・火・金曜日運行）※1/1～1/3運休
【運行便数】	11便/日（行き5便、帰り6便）
【利用者数】	1,444人（793台）※平均値：1.82人/台
【運行経費】	856,440円 @1,080円×793台
【運賃収入】	328,177円（収支率：38.32%）
【補助金額】	528,263円

(5) ひまわりタクシーの実証運行

平成23年7月から玖波7丁目で実証運行を開始し、平成24年1月には運行区域に玖波8丁目を編入した。

迂回路の設定期間中は、こいこいバス、大竹・栗谷線バスが玖波駅西口に停留所を移設したことによる乗継の利便性を図るため、平成29年7月より行き先に玖波駅西口を追加した。併せて、運営状況の改善を目的に運行日及び運行ダイヤを変更した。

玖波8丁目の編入以降、利用者が増加傾向にあったが、平成27年度以降は減少傾向にあり、平成29年度は前年度と比べると利用者数及び収支率は微減している。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成29年4月3日～平成30年3月30日
【運行区間】	玖波7・8丁目～JR玖波駅または広島西医療センター
■4月3日～6月30日	
【運行区間】	玖波7・8丁目～JR玖波駅(東口)または広島西医療センター
【運行日数】	39日(毎週月・火・金曜日運行)
【運行便数】	11便/日(行き5便, 帰り6便)
【利用者数】	187人(130台) ※平均値: 1.44人/台
【運行経費】	130,140円 @900円×57台+@1,080円×73台
【運賃収入】	38,406円 (収支率: 29.51%)
【補助金額】	91,734円
■7月1日～1月31日	
【運行区間】	玖波7・8丁目～JR玖波駅(東口・西口)または広島西医療センター
【運行日数】	90日(毎週月・水・金曜日運行) ※1/1～1/3運休
【運行便数】	11便/日(行き5便, 帰り6便)
【利用者数】	500人(358台) ※平均値: 1.40人/台
【運行経費】	396,900円 @990円×122台+@1,170円×236台
【運賃収入】	104,720円 (収支率: 26.38%)
【補助金額】	292,180円
■2月1日～3月30日	
【運行区間】	玖波7・8丁目～JR玖波駅(東口)または広島西医療センター
【運行日数】	25日(毎週月・水・金曜日運行)
【運行便数】	11便/日(行き5便, 帰り6便)
【利用者数】	120人(92台) ※平均値: 1.30人/台
【運行経費】	93,060円 @900円×35台+@1,080円×57台
【運賃収入】	24,816円 (収支率: 26.67%)
【補助金額】	68,244円
■平成29年度(年間)	
【運行日数】	154日 ※1/1～1/3運休
【利用者数】	807人(580台) ※平均値: 1.39人/台
【運行経費】	620,100円
【運賃収入】	167,942円 (収支率: 27.08%)
【補助金額】	452,158円

(6) 湯舟のりあいタクシーの運行

平成24年1月から実証運行を開始した。

平成25年9月と平成26年12月に運行内容を変更し、徐々に利用者が増加していたが、更に利用状況を改善するために地区住民の意見をとりまとめ、平成28年2月に運行内容を変更した。

変更前と比べて、平成28年度は利用者数及び収支率が大きく改善したため、第1回活性化協議会において本格運行が承認された。

平成29年度は前年度と比べると利用者数と1台当たりの利用者数、収支率はやや減少している。

【受託者】	南大竹交通
【運行期間】	平成29年4月4日～平成30年3月30日
【運行区間】	湯舟地区～広島西医療センターまたはゆめタウン大竹
【運行日数】	154日(毎週火・水・金曜日運行) ※1/1～1/3 運休
【運行便数】	10便/日(行き5便, 帰り5便)
【利用者数】	621人(413台) ※平均値: 1.50人/台
【運行経費】	446,040円
【運賃収入】	141,132円 (収支率: 31.64%)
【補助金額】	304,908円

(7) 栄ぐるりんバスの実証運行

平成24年2月から実証運行を開始した(支線交通としては、唯一の定時定路線型バス)。

平成25年9月, 平成27年4月, 平成28年2月に運行内容を変更したが, 利用状況が改善しなかったため, 平成30年2月に運行を終了した。バスの運行終了後は, 予約型乗合タクシー「栄ぐるりんタクシー」に運行形態を変更し, 平成30年3月から実証運行を開始している。

【受託者】	南大竹タクシー
【運行期間】	平成29年4月3日～平成30年2月28日
【運行区間】	JR大竹駅～栄地区巡回～JR大竹駅 全長: 8.3km, 停留所: 25か所
【運行日数】	226日(月～金曜日運行(休日除く))
【運行便数】	14便/日(青ルート8便, 赤ルート6便)
【利用者数】	2,856人 ※平均値: 12.64人/日 0.90人/便
【運行経費】	7,889,302円
【運賃収入】	473,400円 (収支率: 6.00%)
【補助金額】	7,415,902円
【関連事業費】	車体修繕作業料(車両用マグネット貼付部分钣金補修): 449,280円 回数券払い戻し: 9,920円 バス停現状回復作業料: 49,680円(結節点整備費)

(8) 栄ぐるりんタクシーの実証運行

平成30年3月から実証運行を開始した。運行区域内に乗降場所と目的地を設定し, 栄町地区内にある医療・買い物などの施設への移動手段を確保した。

【受託者】	南やまとタクシー
【運行期間】	平成30年3月1日～平成30年3月30日
【運行区間】	栄町地区(南地区・北地区)～(地区内目的地)しまむら, 村井内科, 松前内科, 栄公民館, コミュニティサロン栄町, ゆめマート, (地区外目的地)大竹駅または総合市民会館
【運行日数】	12日(南地区: 毎週月・水・金曜日運行) ※1/1～1/3, 祝日運休 14日(北地区: 毎週火・木・金曜日運行) ※1/1～1/3, 祝日運休
【運行便数】	11便/日(行き5便, 帰り6便)
【利用者数】	80人(50台) ※平均値: 1.60人/台 (南地区: 67人(39台), 北地区: 13人(11台))
【運行経費】	60,000円 @1,200円×50台
【運賃収入】	20,000円 (収支率: 33.33%)
【補助金額】	40,000円

(9) その他、新たな支線交通の検討

平成 28 年度中に御園台地区から要望があり、継続して乗合タクシーでの運行を検討している。

(10) 大竹・栗谷線の運行

迂回路の設定に合わせて工事期間中の平成 30 年 1 月末までは玖波駅東口の停留所を玖波駅西口に移設していたが、平成 30 年 2 月からはこいこいバスと同様に玖波駅東口へ停留所を戻した。

また、上条バス停について、利用者の利便性の向上及びバス停環境の改善のため、停留所の改修工事を実施した。

【関連事業費】 上条バス停改修工事：140,400 円（結節点整備費）

(11) 坂上線の運行

国道 186 号交差点工事及び防鹿地区管渠布設工事に伴い、工事期間中の迂回路での運行を実施した。

(12) 広報紙による啓発記事掲載

「広報おおたけ」（以下「市広報」という。）に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を毎月掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

【事業費】 印刷製本費：306,520 円 @1.59 円×14 ページ×12,750 部+消費税

(13) バスエコファミリーキャンペーンについて

土日祝日の利用を促進するとともに、*モビリティ・マネジメントの一環として、こいこいバスについては、11 月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを実施した。（平成 23 年度以降実施、利用者の増加に伴い、平成 28 年度から大人 1 人につき小学生 2 人を無料とする運用とした。）

※ モビリティ・マネジメント：マイカーに過度に依存した生活から、適度に賢く公共交通を活用する暮らしへ、ライフスタイルや意識の転換を促進する働きかけのこと。

【事業費】 小学生分補てん：8,900 円（89 人分） 《再掲》

【利用実績】 平成 23 年度：29 人、平成 24 年度：57 人、平成 25 年度：71 人、平成 26 年度：50 人
平成 27 年度：125 人、平成 28 年度：112 人、平成 29 年度：89 人

(14) 広告の募集について

こいこいバスの収入を確保するため、市広報及び市ホームページにこいこいバス（ベンチ広告、車内広告）の広告募集記事を掲載した。

【平成 29 年度広告料収入】 《再掲》

こいこいバス：1 社、228,096 円（ベンチ広告 22 か所（44 枠）分）
こいこいバス：2 社、25,920 円（車内広告 12 か月×2 台分）

(15) 本格運行への移行を判断する基準について

ひまわりタクシーについては、運行協議会で「基準」を「1月あたり利用者数80人、1台あたり利用者数1.6人」とすることが決定し、第1回活性化協議会で報告し、承認された。

(16) 大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するため、専門的知識及びノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

<p>【受託者】 株地域未来研究所中国四国事務所</p> <p>【業務名】 平成29年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務</p> <p>【履行期間】 平成29年6月19日～平成30年3月28日</p> <p>【業務内容】</p> <ul style="list-style-type: none">◇ こいこいバスの検証<ul style="list-style-type: none">・こいこいバスの利用状況の検証・こいこいバス利用者アンケート調査の実施及び結果整理◇ 支線交通の検証<ul style="list-style-type: none">・三ツ石地区乗合タクシー、栄ぐるりんバス、ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシーの利用状況の検証・栄ぐるりんタクシーの運行許可申請に係る支援や住民への周知媒体等の作成◇ 大竹・栗谷線及び坂上線の検証<ul style="list-style-type: none">・大竹・栗谷線及び坂上線の利用状況の検証・大竹・栗谷線及び坂上線のルート図面作成◇ モビリティ・マネジメントの支援<ul style="list-style-type: none">・こいこいバス利用促進及びルート変更の周知ツールで配付したポケットティッシュのカバーデザイン作成及びポケットティッシュの製作・市広報紙を活用した公共交通の利用促進を目指した記事作成の支援◇ 幹線交通検討分科会委員候補者に対する資料作成支援<ul style="list-style-type: none">・幹線交通検討分科会の委員候補者に対して、検討会の内容や委員の担うべき役割等について説明するための資料作成の支援◇ 次期計画策定の関連資料整理<ul style="list-style-type: none">・地域公共交通網形成計画の事例収集及び計画策定に向けた留意点等の整理 <p>【事業費】 2,000,000円</p>

3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成 23 年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成 24 年度以降、こいこいバスと支線交通を対象とし、運営経費の財源として活用している。

なお、平成 27 年度に 94,558,000 円を積み増しした。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金	※()は、積み増し後の数値。
【造成日】	平成 24 年 3 月 29 日 (平成 28 年 3 月 31 日)	
【基金額】	105,000,000 円 (199,558,000 円)	
【再編交付金額】	102,585,000 円 (197,143,000 円)	
【事業年度】	平成 24 年度 ~ 平成 29 年度 (平成 24 年度 ~ 平成 47 年度)	
【繰出金】	平成 24 年度 : 14,236,447 円	
	平成 25 年度 : 16,037,693 円	
	平成 26 年度 : 16,973,885 円	
	平成 27 年度 : 12,132,868 円	{ こいこいバス : -1,716,013 円 三ツ石地区乗合タクシー : 528,263 円 ひまわりタクシー : 452,158 円 湯舟のりあいタクシー : 304,908 円 栄ぐるりんバス : 5,085,000 円 栄ぐるりんタクシー : 40,000 円 (こいこいバス黒字分で他の支線交通の赤字分を補てん)
	平成 28 年度 : 4,142,735 円	
	平成 29 年度 : 4,694,316 円	
	(予定)	
【基金残高】	137,781,383 円 (平成 30 年 3 月 31 日現在)	